

令和6年度 伊勢山中学校 グランドデザイン

名古屋市学校教育の努力目標

ともに学び 自分らしく生きる

伊勢山中学校教育目標

責任を重んじ自主性と実践力のある生徒の育成

- 学校生活において自分の役割を自覚して誠実にやり抜き、その結果に責任を負う
- 何事も自分で考え、的確に判断し、根気よく努力する
- 自ら目標を見付け、計画を立てて実行する



<学習指導> 「生徒が夢中になって学ぶ授業の創造」

○ 「主体的・対話的で深い学び」の実現

ー協働的な学び、学習の個別化・個性化



- ・ 生徒の「学び」を中心にする授業「分かった!」「できた!」
- ・ タブレットなどICT機器の効果的な活用
- ・ 指導と評価の一体化の実現
- ・ 特別支援教育の(視点での支援の)充実ー個別化・個性化

伊勢山中学校 学校努力点

「なぜ」を問い、自ら学び行動する伊勢山中生



<特活指導> 「協働できる自立（自律）した社会人の育成」

○ キャリア教育の視点での教育活動の整理と実践

- ・ 総合的な学習の時間の体系化・系統化
- ・ 自分の将来を自ら切り拓く力を育てる支援の充実
- ・ キャリアサポートプログラムの推進
- ・ 生徒会活動の充実・学校行事の発展



<生徒指導> 「生徒の心を動かす生徒指導」

○ 生徒の自立（自律）心、自尊感情、他者意識の育成

- ・ 教育相談体制、学習支援体制の充実
- ・ 自他を尊重する、安心して安全な学びの場の創造
- ・ 学校生活の望ましい在り方を考える場面の創出
- ・ サポートスタッフとの適切な協働

失敗を恐れず粘り強く挑戦を繰り返そうとする心と経験が、
互いに支え合い思いやり合う温かい心と経験が、

未来で力強く生きる礎となる

グランドデザインに基づき、「もっともっと行きたくなる学校」「もっともっと学びたくなる学校」

「叱られるからしない」「叱られないからいい」「言われていないからやれない」ではなく、

自ら考え、判断して行動する生徒の姿を目指して教育活動を推進します。

<学習指導> 「生徒が夢中になって学ぶ授業の創造」

○「主体的・対話的で深い学び」の実現

①個別最適な学び：個に応じた指導の重視 — 指導の個別化・学習の個性化

②協働的な学び：生徒同士・多様な他者との協働 — 探究的な学習・体験活動 ※2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

- ・ 各教科等における「見方・考え方」に基づき、期待する生徒像の実現のためのよりよい授業づくりを目指します。そのために、生徒が「分かる」「できる」を実感し、更なる「学ぶ」意欲を喚起することができるよう、授業をデザインします。
- ・ タブレット等のICT機器を有効に活用して、生徒が主体的・協働的に、かつ意欲的に「学ぶ」授業を目指します。
- ・ 個別支援、オンライン授業の実践など、ICT機器を有効活用する場面の充実を目指します。
 - ⇒ ICT研修、授業改善への取組（一人一実践の授業公開）、評価に関する学習会、ICT環境の充実「～したい」があふれる授業の創造

<生徒指導> 「生徒の心を動かす生徒指導」

○生徒の自立（自立）心、自尊感情、他者意識の育成（醸成）

- ・ 生徒一人一人に寄り添い、生徒が自らよりよい学校生活を送ろうとする心の成長を支えます。
- ・ 学級担任、学年職員、養護教諭、サポートスタッフ（SC、SSW、支援員、見守りサポーター等）による教育相談体制を充実させ、生徒が自らを大切にするとともに、自己を見つめ、自己に向き合って、失敗を恐れず前へ進もうとする心を支えます。
- ・ 生徒が、学校生活の在り方（挨拶、マナー・礼儀、校則等）を主体的に考え、支え合い思いやり合う「よりよい個の集合」としての集団（学級・学年・学校・部活動）形成ができるように支援します。
- ・ 令和6年度より本校に設置された「中ブロック子ども応援委員会」をはじめ関係諸機関と適時・適切に連携し、生徒の学びと心の成長を支えます。
- ・ 校内での教室以外の居場所「あいあいルーム」の有効活用、関係機関との適切な連携を通して、登校することに困難を抱える生徒の主体的な学びを支援します。
 - ⇒ チーム伊勢山（教職員・サポートスタッフ・子ども応援委員会・CN）による支援体制の確立、自殺予防教育、各種アンケート調査（学校生活アンケートWEBQU、気づいてる？こころのSOS等）の有効活用、不登校生徒支援（あいあいルーム）、校則の見直し・制服改定への取組、道徳教育の充実

<特活指導> 「協働できる自立（自律）した社会人の育成」

○キャリア教育の視点での教育活動の整理と実践

- 卒業後、成人後の進路選択を見据え、**進路（針路）指導と関わらせた目標設定**をして、教科等横断的に**総合的な学習の時間のカリキュラム整備**を進め、実践します。
- R6年度より配置されたキャリアナビゲーターと協働し、生徒一人一人の自分らしい生き方を実現するキャリア教育を推進するとともに、コロナ禍での経験を生かしてより革新的な行事の在り方を追究し、生徒同士が支え合い、思いやり合う場面を創出します。
- 生徒会活動を基盤として、生徒自ら日常の学校生活を見つめ、よりよい学校生活、よりよい人間関係づくりを目指した取組を進めます。
- JRCの精神を共有しつつ、生徒が自ら、より良い学校生活を創り上げることを目指して活動や運動の在り方を考え、推進できる**生徒会活動を促進**します。

⇒ **総合的な学習の時間における目標の設定、進路指導の充実、生徒会・委員会活動の活性化、学校行事の改善**

.....

<努力点を推進するにあたっての3つのポイント>

◇『知りたい』：日常の事象を「自分事」にするために

⇒「言われたこと」「与えられたこと」に義務的・形式的に取り組むのではなく、主体的に捉えようとする姿を目指す

※登校時に地域の方から苦情が来るのはなぜか

本来、大勢の生徒が広がって歩くときの他者への迷惑を考えなければいけないのだが、この思考は他者から強制されることで起こるものではなく、平素の思考の積み重ねから適時に行動として表出されるべきもの。しかしながら、あるべき姿を考えさせるだけでは、その場だけの模範解答になり、行動化されない。自発的に「なぜ」を問い、そこで得た答えを必要な場面で行動化することが必要である。そのためには、背景や理由に関心をもって考えようとする姿勢「知りたい」を育てることが重要である。教科等の学習においても、多くの場面で「なぜ」を問う経験を積み重ねることが、こうした姿に波及するものと考えらる。

◇『学びたい』：「なぜ」から「もっと知りたい」「もっと学びたい」の思いを引き出すために

⇒自身の気付きから自ら課題を設定し、より深く考え、課題を解決していこうとする姿を目指す

◇『伝えたい』：学習の成果を実感し、達成感と共に更なる学びの意欲を育てるために

⇒自ら学んだ結果得た知識や考え、技能を仲間と共有する過程で、認め合い、補い合い、高め合う姿を目指す